

大雨・洪水に備えて

風が強いとき・大雨のとき、どうすればいいのか

毎年のように台風や集中豪雨によって浸水や土砂災害などの被害が発生しています。しかし、地震と違い、風水害はある程度事前に発生を予測することができます。危険が迫ったら早めに対応しましょう。雨風が強まってきたら、まずテレビやラジオ、インターネット等で発表される気象庁からの注意報・警報・特別警報や、市区町村などからの避難に関する情報に注意しましょう。不要不急の外出は控え、危険な場所には近づかないようにしましょう。

風が強いとき

室内では



風圧や飛来物で、窓ガラスが割れ、破片が吹き込む危険があります。外側から板でふさいだり、内側からガムテープを×印に貼り、カーテンを引いておきましょう。

路上では



看板が飛んだり、街路樹が倒れたりする危険があるので、近くの頑丈な建物の中に避難しましょう。

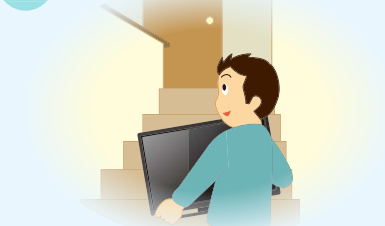
海辺では



海中への転落や高波に巻き込まれる危険があります。沿岸に近づかないようにしましょう。強風、豪雨時はサイレンなどの警報が聞こえないこともあるので十分に注意しましょう。

大雨のとき

室内では



床下・床上浸水の危険があります。家財道具や貴重品を高い場所に移動しておきましょう。地下には避難しないようにしましょう。

車の運転中は



豪雨で視界が悪くなると非常に危険です。あせらずに高台に移動しましょう。浸水でエンストしたときは、無理に再始動させるとエンジンを傷めてしまいます。

河原では



急な増水や土砂災害の危険があるので、河川敷から堤防の外に移動しましょう。今いる場所で雨が降ってなくても、サイレンなどの警報が聞こえたらすぐ退避を。

大雨・洪水に関する注意報・警報について

次のような場合に、気象庁から「注意報」「警報」「特別警報」が発表されます。

大雨・洪水注意報

災害が発生するおそれがある

大雨

大雨により、浸水災害や土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。

洪水

大雨、長雨、融雪などにより河川が増水し、災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。

大雨・洪水警報

重大な災害が発生するおそれがある

大雨

大雨により、重大な浸水災害や重大な土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。

洪水

大雨、長雨、融雪などにより、河川が増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。

大雨特別警報

「警報」よりもはるかに高い危険度

大雨

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、もしくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想したときに発表。

※「洪水」は、全国約400の河川において指定河川洪水予報を発表しているため、特別警報の設定はありません。

市が発表する避難情報の種類と、とるべき行動

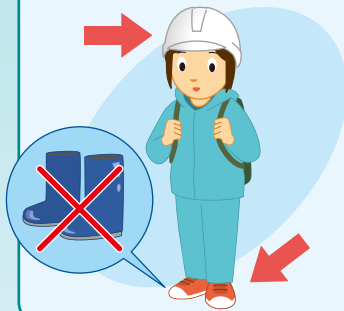
種類	発表時の状況	とるべき行動
避難準備情報	災害による人的被害の発生する可能性が高まってきている状態。	高齢者、子ども、障がいがある方など、避難に時間を要する方は、早めに自主的な避難行動を開始してください。
避難勧告	災害による人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状態。	すべての住民は指定された避難場所に避難を始めます。
避難指示	切迫した状況であり、災害による人的被害の発生する可能性が非常に高いと判断された状態、または人的被害が発生した状態。	まだ避難していない住民は直ちに避難します。万一避難する余裕がなければ、命を守る最低限の行動をとります。



風水害からの避難の注意点

安全な服装で

ヘルメットで頭を保護し、靴はひもで締められる運動靴を履く。裸足、長靴は厳禁。



深さに注意

歩行可能な水深の目安は約50センチだが、水の流れが速い場合は20センチ程度でも危険。危ないと判断した場合は、無理をせず、高所で助けを待つ。



足元に注意

道路が冠水すると足元が見えにくくなる。長い棒などを杖代わりにして、側溝やマンホールに気をつける。



単独行動は危険

避難するときは2人以上で。流されないように、ロープで互いを結ぶ。高齢者や傷病者などは背負い、子どもには浮き輪などをつけて安全を確保する。



水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければなりません。そのような場合は、避難場所への移動(水平避難)だけでなく、近隣ビルの高層階や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行い、救助を待つという判断も必要です。



例えば下記のような場合、屋外への移動は危険です

- 夜間や急激な降雨で避難路上の危険箇所がわかりにくい。
- ひざ上まで浸水している(50cm以上)。
- 浸水は20cm程度だが、水の流れる速度が速い。
- 浸水は10cm程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある。

垂直避難を行ってください

浸水による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討してください。